

大阪府からの長距離移動を終え、バスを降りる
八戸学院光星高のナイン。20日午後10時ごろ、
八戸市美保野



おかえり光星ナイン

甲子園8強 熱戦終え、八戸到着

第105回全国高校野球選手権の準々決勝で涙をのんだものの、4年ぶりに8強入りを果たした八戸学院光星高硬式野球部は20日、滞在先の大阪府吹田市のホテルから八戸市内の青雲寮へ戻った。選手たちは試合翌日の10時間を超えるバス移動にも疲れの色を見せることなく、手際よく荷物を降ろして住み慣れた寮に帰った。

一行は保護者やホテルの関係者らに感謝を伝えた後、同

日朝に吹田市を出発。八戸の寮に到着したのは午後10時ごろだった。

仲井宗基監督は、最後の夏が終わった3年生に向けて「よく頑張ったが、悔しい思いを次のステージにぶつけてほしい」とエール。

21日から早速、新チームの練習を始めるとし、「また甲子園へ戻って来られるように、まずは秋の大会で選抜大会の切符を取りに行く」と力強く語った。(桑田友人)